

みずほマーケット・トピック(2024 年 4 月 5 日)

内容	1. 為替相場の動向	2. 来週の注目材料
	※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。	

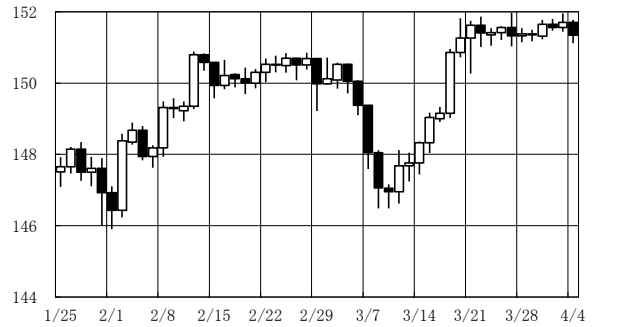
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、週末に151円を割り込むなど、上値重く推移した。週初1日、151.40円でオープンしたドル/円は、材料に欠ける展開の中、151円台前半で小動き。海外時間は、米3月ISM製造業景気指数の強い結果を受け、米金利上昇につれ151円台後半へ上昇した。2日、ドル/円はドル買い地合いが継続し、151円台後半でじり高。海外時間は、政府・日銀による円買い介入への警戒感が熾り上値が重い中、NY時間には米金利低下が材料視され151円台半ばへ下落した。3日、ドル/円は動意に欠ける中、151円台半ばで小動き。海外時間は、米3月ADP雇用統計の上振れを受け、米金利上昇と共に一時週高値の151.95円へ上昇。ただ、その後の米3月ISM非製造業景気指数の弱い結果を受けた米金利反落を背景に、151円台半ばに値を下げた。4日、ドル/円は米金利上昇を受け151円台後半へじり高。海外時間は、米新規失業保険申請件数の軟調な結果を受けた米金利低下や、中東情勢緊迫化によるリスク回避の動きから、一時151.13円まで急落した。本日のドル/円は、週安値を更新しながら取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは週後半にかけて上昇、堅調推移した。週初1日、1.0793でオープンしたユーロ/ドルは、米3月ISM製造業景況指数の堅調な結果を受けた米金利上昇が重しとなり、1.07台前半へ下落した。2日、ユーロ/ドルは、前日の下落地合いが続き一時週安値の1.0725まで軟化したが、その後強弱まちまちな米経済指標の結果に米金利が低下し、1.07台後半に反発した。3日、ユーロ/ドルは米経済指標の市場予想比下振れや、パウエルFRB議長発言が警戒されたほどタカ派的ではなかったことなどを受けた米金利低下が下支えとなり、1.08台前半へ上伸した。4日、ユーロ/ドルは軟調な米経済指標の結果を受け、米金利低下につれ週高値の1.0876まで上値を追いかけた。その後は、中東情勢緊迫化によるリスク回避の動きが散見され、1.08台前半に値を戻した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.08台前半で取引されている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		3/29(Fri)	4/1(Mon)	4/2(Tue)	4/3(Wed)	4/4(Thu)
ドル/円	東京9:00	151.45	151.40	151.59	151.55	151.58
	High	151.50	151.77	151.80	151.95	151.77
	Low	151.17	151.23	151.46	151.45	151.13
	NY 17:00	151.38	151.65	151.53	151.71	151.35
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0791	1.0793	1.0737	1.0768	1.0838
	High	1.0803	1.0797	1.0779	1.0837	1.0876
	Low	1.0769	1.0731	1.0725	1.0764	1.0832
	NY 17:00	1.0790	1.0742	1.0770	1.0836	1.0837
ユーロ/円	東京9:00	163.17	163.42	162.67	163.16	164.26
	High	163.40	163.42	163.33	164.35	164.92
	Low	162.97	163.15	162.62	163.08	163.80
	NY 17:00	163.40	163.25	163.19	164.35	164.01
日経平均株価		40,369.44	39,803.09	39,838.91	39,451.85	39,773.14
TOPIX		2,768.62	2,721.22	2,714.45	2,706.51	2,732.00
NYダウ工業株30種平均		-	39,566.85	39,170.24	39,127.14	38,596.98
NASDAQ		-	16,396.83	16,240.45	16,277.46	16,049.08
日本10年債		0.72%	0.74%	0.75%	0.76%	0.77%
米国10年債		-	4.32%	4.35%	4.35%	4.31%
原油価格(WTI)		-	83.71	85.15	85.43	86.59
金(NY)		-	2,257.10	2,281.80	2,315.00	2,308.50

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、10日(水)に3月消費者物価指数(CPI)が公表予定となっている。2月は+3.2%(前年比、以下同様)と市場予想および1月の+3.1%を上回った。一方、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは+3.8%と1月の+3.9%からは鈍化も、市場予想の+3.7%を上回った。エネルギー価格は前年比の裏が出る格好で一層の下落幅拡大には至っていないが、食料品の伸び鈍化もあり、非コア項目は落ち着いている。他方コア項目では、コア財価格が▲0.3%と前月に続きマイナス寄与となった一方、コアサービス価格は+5.2%と高水準での推移が続いている。中でも、FRBが重視する居住費除くコアサービス価格も、ブルームバーグの試算によれば+4.3%と9か月ぶりの高水準となっており、FRBの早期利下げを支持する結果とは言えないのが現状だ。なお、3月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+3.5%、コアベースで+3.7%と見込んでいる。
- 欧州では、11日(木)にECB政策理事会が開催される。前回3月会合では、4会合連続で政策金利の据え置きを決定。ラガルド ECB 総裁の記者会見においても、3月会合で利下げが議論されなかったことが明言された。雇用・賃金情勢について年央まで判断がつかないことを吐露しており、4月会合の現状維持もほぼ確実な情勢。ただ、「これまでの引き締め巻き戻しを開始したばかり」とも述べており、正常化プロセスが助走に入っているのは事実だ。「4月にはもう少し、6月にははるかにもっと状況が分かる」ともしており、6月会合を意識しているのは明白だ。本欄では妥結賃金の先行きの下げ止まりや反発を見込み、年後半での利下げ着手を予想するが、仮に市場予想に即し6月会合で利下げを開始したとしても、例えばその後毎会合で利下げを行うなどは想定しづらく、総じて緩やかな利下げペースになるだろう。

	本 邦	海 外
4月5日(金)	・2月景気動向指数(速報)	・ユーロ圏2月小売売上高 ・米3月雇用統計
8日(月)	・2月毎月勤労統計 ・2月国際収支 ・3月景気ウォッチャー調査	・独2月鉱工業生産 ・独2月貿易収支 ・ユーロ圏4月センチックス投資家信頼感
9日(火)	・3月消費者態度指数 ・3月工作機械受注(速報)	・米3月NFIB中小企業楽観指数
10日(水)	・3月国内企業物価指数	・米3月消費者物価指数 ・米2月卸売在庫(確報) ・米FOMC議事要旨(3月会合分)
11日(木)	—————	・ユーロ圏ECB政策理事会 ・米3月生産者物価指数
12日(金)	・2月鉱工業生産(確報) ・2月設備稼働率	・独3月消費者物価指数(確報) ・米3月輸出/輸入物価指数 ・米4月ミシガン大学消費者マインド(速報)

【当面の主要行事日程(2024年4月～)】

ECB政策理事会(4月11日、6月6日、7月18日)

IMF世銀・年次総会(4月15日～20日)

日銀金融政策決定会合(4月25～26日、6月13～14日、7月30～31日)

FOMC(4月30日～5月1日、6月11～12日、7月30～31日)

金融市場部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/egon_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2024年4月4日	ECBは6月利下げに向けて第一関門突破
2024年4月3日	外貨準備構成通貨の近況について(2023年12月末時点)
2024年4月2日	デジタル強国アイルランドの存在感をどう考えるか？
2024年4月1日	デジタル赤字は日本だけの問題なのか？
2024年3月29日	週末版
2024年3月27日	円安・円高双方のリスクになる連続利上げ
2024年3月25日	23年末資金循環統計を受けて～株・外貨共に過去最高目前～
2024年3月22日	週末版(FOMCを受けて～少なくなるドル/円相場の「押し目」)
2024年3月21日	「債券市場への優しさ」が助長した円安～日銀決定を受けて～
2024年3月18日	「噂で売って、事実でも売り」になりそうな円相場
2024年3月15日	週末版(「家計の円売り」は3月も続くのか？～試される個人投資家の芯～)
2024年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年2月分)
2024年3月13日	春闘と円高リスク～「異例の賃上げムード」というリスク～
2024年3月12日	最近の国際収支の状況について～CFでは初月赤字～
2024年3月11日	最大の円高リスクは日銀の連続利上げ
2024年3月8日	週末版(ECB政策理事会を終えて～6月まで材料なし～)
2024年3月6日	世界の株価指数から見えるもの～中進国の容疑～
2024年3月5日	ユーロ圏の賃金・物価情勢～妥結賃金は年内4%台か～
2024年3月1日	週末版(マイナス金利解除と円相場の関係性～ドル/円相場、数少ない押し目の考え方～)
2024年2月27日	ユーロ圏の現状と展望～金利と需給から～
2024年2月26日	日経平均株価上昇の理由～インフレの帰結～
2024年2月22日	週末版
2024年2月21日	1月貿易収支を受けて～24年も円売り優勢変わらず～
2024年2月20日	日独GDP逆転の本質～為替要因だから良いのか？～
2024年2月16日	週末版
2024年2月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年1月分)
	本邦10～12月期GDPを受けて～総崩れ～
2024年2月14日	「新時代の赤字」と原油と同質性
2024年2月13日	投信経由の対外証券投資～涉む資産運用立国の未来～
2024年2月9日	週末版
2024年2月8日	仮面の黒字国～戻らぬ円とデジタル農奴～
2024年2月7日	PPPやREERをどう解釈すべきか～インフレ調整という未来～
2024年2月2日	週末版(ソフトランディングと賃金減速～正当性を帯びる「夏」の重要性～)
2024年2月1日	FOMCを終えて～為替市場が狙う「次の獲物」～
2024年1月29日	日本円の現在地～独歩安で始まった2024年～
2024年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「夏」がキーフレーズ～)
2024年1月24日	日銀金融政策決定会合～織り込んで円安の怖さ～
2024年1月23日	ECB政策理事会プレビュー～勝利宣言はまだ～
2024年1月22日	「家計の円売り」と「損保のレバトリ」の違い
2024年1月19日	週末版
2024年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年12月分)
	「貯蓄から逃避」で進む円の独歩安～現状整理～
2024年1月17日	「新時代の赤字」の定点観測と今後の需給イメージ
2024年1月16日	マイルド・キャピタルフライト(後編)～需給への評価～
2024年1月15日	マイルド・キャピタルフライト(前編)～家計の円売り～
2024年1月12日	週末版
2024年1月11日	ユーロ圏インフレ率の近況～再浮揚の読み方～
2024年1月10日	震災と旅行収支の関係について～2011年からの教訓～
2024年1月9日	米大統領選挙の考え方～メインシナリオを覆すか～
2024年1月5日	週末版(能登半島地震の影響について～構造変化を経て「普通の通貨」になった円～)
2024年1月4日	24年、持つべきイメージは「長期円安局面の小休止」
2023年12月22日	週末版(本邦の家計金融資産動向について～外貨性資産比率は「根雪」のイメージで～)
2023年12月20日	日銀金融政策決定会合～解除時期と円相場への影響～
2023年12月18日	2024年、円需給の考え方～円転率や貿易収支が課題～
2023年12月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「利上げ→利下げ」の考え方～)
2023年12月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年11月分)
	FOMCを終えて～突然変わった節目、日銀への影響も～
2023年12月13日	最近の需給環境について～24年も脆弱性は残る～
2023年12月12日	12月日銀会合の行方～政治的観点、2000年との比較～
2023年12月11日	24年ドル/円見通し外観～「主戦場の変化」を確認する年～
2023年12月8日	週末版(円高と植田発言の読み方～チャレンジングの真意～)
2023年12月7日	ECB、シュナーベル発言の読み方～拡大解釈を警戒～
2023年12月6日	対内直接投資の胎動と今後への展望
2023年12月4日	24年、円高シナリオの鮮度～130円割れはあれど～
2023年12月1日	週末版(ユーロ圏11月消費者物価指数の読み方～「最後の砦」となるサービス業～)
2023年11月28日	ユーロ圏経済とECB金融政策の現状と展望
2023年11月24日	週末版(貿易赤字国が迎える米利下げ～通貨高は当たり前ではない～)
2023年11月21日	円高とPPPの考え方～収斂するのか、しないのか～
2023年11月20日	過去最安値に肉薄する円の名目実効相場(NEER)
2023年11月17日	週末版(本邦10月貿易統計を受けて～繰り返される23年と同じ言説～)
2023年11月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年10月分)
	1年ぶり2度目のCPIショックをどう評価すべきか
2023年11月14日	ユーロ/円、15年ぶりの高値をどう理解すべきか
2023年11月13日	24年は「家計の円売り」元年になるか～外貨資産の現状～
2023年11月10日	週末版(23年度上期経常収支の読み方～CFベースの黒字は10分の1に～)
2023年11月9日	「欧州の病人」は戻って来たのか？～企業の「ドイツ離れ」～
2023年11月2日	週末版
2023年10月30日	150円台定着を受けて～その背景と今後の論点整理～
2023年10月27日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資停止を阻むイタリア国債利回りの上昇～)
2023年10月26日	ECBプレビュー～利上げ代替としてのMRR引き上げ～
2023年10月23日	サービス収支に透ける製造業の行動変化
2023年10月20日	週末版
2023年10月19日	本邦9月貿易統計～起きるべくして起きた23年の円安～
2023年10月18日	再び直面する天然ガスリスク～ユーロ安考察～
2023年10月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年9月分)
2023年10月13日	週末版(日独GDP逆転について～「弱い円」が原因としても・・・)
2023年10月12日	カネ関連収支でも拡がるサービス赤字
2023年10月11日	赤字が拡がるデジタル関連およびカネ関連の国際取引
2023年10月10日	円安シナリオを延命させる中東リスク
2023年10月6日	週末版
2023年10月5日	「底打ち懸念」も漂う米経済～米金利上昇の考え方～
2023年10月4日	続・インフレを輸入する日本～「人手不足」の波～
2023年10月3日	ユーロ圏のインフレ情勢とECBの「次の一手」について